

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1025414
園名	駿河台大学第一幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

ビオトープの実践

<テーマの設定理由>

園庭の自然環境を整備してきたことで虫が集まる園になり子どもたちにとって身近な場である。普段から見たり捕まえたり、飼育したりすることに興味をもつ姿が見られる。そこにこれまでなかった水辺の環境となるビオトープを加えることで、更に違った生き物に対する興味の幅も広げていきたい。

### 2. 活動スケジュール

- ・花壇の一部に埋め込まれた池を見つける。(9月)
- ・バケツ等の道具を使って池に水を入れる。(9月)
- ・水草や石、学級で飼育している生き物を入れる。(9月)
- ・池の中の生き物や水草を観察する。(9月～11月)
- ・観察ケースに入れて詳しく観察したり、図鑑で調べたりする。(9月～11月)
- ・池の様子を見て気付いたことや発見したことを友達や教師と共有する。(9月～11月)

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

##### ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

###### ○活動のために準備した素材や道具

なごみ池、水草、図鑑、砂利、赤玉土、昆虫ケース、観察ケース、水槽、顕微鏡、デジタルカメラ、メモリーカード、ホワイトボード

###### ○環境の設定

なごみ池…子どもの動線にある学級前の花壇の中に設置した。

顕微鏡…いつでも好きな物を自由に見られるような場所に設置した。

昆虫ケース、観察ケース…子どもが興味をもった時にすぐに手にとって使えるような場所に置いた。

#### 活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり

職員がメダカ・エビ・カニを持ってきたのでクラスで飼育することになった。水槽を用意し、エビとメダカと元々飼っていたドジョウを入れた。表示も用意したことで、子どもたちの目につきやすくなり、「お魚だ!」「エビもたくさんいるね!」と友達と話しながら観察している様子が見られた。

メダカが卵を産んだので子どもたちと一緒に観察ケースに卵を移し、しばらく観察してみることにした。「小さくて見にくい」「どうやって大きくなるんだろう?」と思い思いに話し、別の日に顕微鏡を使って卵を観察してみることにした。卵の様々な成長過程を図鑑と照らし合わせながら観察することができ、この日からより愛着をもって、毎日観察するようになった。

花壇に埋め込まれた「なごみ池」を見つけ、子どもたちと一緒に砂利を入れたり、水を運んだり、水草、生き物を入れていった。「大きなお家になってよかったね!」と話しながら優しく水の中に入れる姿が見られた。

ビオトープが完成し、落ち着いてきてからも登園すると生き物の様子を観察する姿が見られていて、久しぶりにドジョウが姿を現すことに気が付くと友達や教師に話して楽しむ姿が見られていた。



#### 4. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

###### 3歳児：

- ・年少児の子供たちにとっては、自分たちができるかできないかということよりも、年中・年長児の遊んでいる姿など目で見たことがやってみたいという意欲に繋がる人が多いと感じた。異年齢の存在は環境としてとても意味があるため、異年齢同士がかかわって遊ぶことのできる時間の確保が子供たちの遊びの興味を広げることにもつながっていくと考えられる。
- ・年少児にとって他学年の助言は、子供たちがしたいことを実現させるためには必要なことであるが、これまでの経験の差から、同じようにうまくできないところもあるのが実態として見られた。しかし、教師がすぐに助けるのではなく、遊びながらどうしたらよいかを一緒に考えたり、時に見守ったり、どこでどのような援助をするかを見極めることも子供たちが経験を積んでいくためには大切だと感じた。
- ・型抜きや山作り、水路づくりでどの遊びにおいても日々繰り返し遊んでいる子供は、経験が少ない子供よりも、どうしたらきれいな形ができるか、崩れない山になるか、水が流れるかのコツをつかんで、少しずつできるようになることが増えていく姿が見られた。

###### 5歳児：

- ・これまでの幼稚園での遊びの中で砂場遊びを楽しんでいた経験から、一齐活動でも水を入れたり土を押し固めたり自分の知っていることを生かして城作りを楽しめた。
- ・新しい型や水路セットを購入したことで興味が広がり、自分から砂場遊びを楽しんでいなかった子どもも積極的に砂場遊びを楽しむことができた。
- ・学級全体で少し難しいことに取り組む中で、友達と関わり城を作るという共通の目的に向かって協力したり、考えて工夫する機会ができた。
- ・興味をもって主体的に取り組んだからこそ、型に土を入れる様々な方法を考えて、成功させるにはもっとこうしたらよいのではないかと考えたり提案をすることも楽しんでいた。